

鷺羽新聞

倉敷市・倉敷鷺羽高 新聞部(1、2年)

2016年(平成28年)11月11日(金)

鷺羽新聞

防災特集

岡山県民、災害に備えよ!

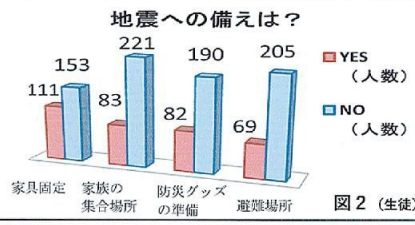
鷺羽新聞

災害に対する意識 露呈

災害への意識あなたは大丈夫?

2016年4月16日に熊本県、10月21日に鳥取県で大きな地震があった。私たちの住む岡山県倉敷市でも10月21日は震度4を観測した。私たちが暮らす岡山県は、災害が少ないからと安心していいのだろうか。私たちの災害に対する意識はどのくらいあるかを調べ、今後の防災対策に生かさないかと思ひ、鷺羽高校の教員と生徒にアンケートをとった。それが左のグラフである。アンケートの対象は各学年生徒約100名ずつ、教員約80名である。

図1のグラフから、全体の約3分の1の生徒が「岡山県で震度5以上の地震は起こらない」と考えていたことが判明した。



確かに、岡山県は災害の少ない県だと思われている。東日本大震災以降、岡山県に移住してくる人も少なくない。私たちの世代は大きな地震も経験していない。だからこそ災害に対する危機意識が低いのではないかと、先生方も図1と同様にアンケートをとったが、ほぼ全員が震度5以上の地震が起こると答えたのは驚きの差だろうか。

慢心ダメ、ゼツタイ

地震への備えについてアンケートをした(図2)。どの質問に対する回答もNOと答える人が多く、災害に対する意識や地震への備えの低さが明らかになった。これはとても残念な結果だ。

岡山県で震度5以上の地震が起こると思ってる人が半数以上いるにもかかわらず、それに対する備えはできていない。いっとな災害が起こるのか分らないからこそ、日頃からの備えが大切なのだ。

例えば、タンスの上部など天井をボール式器具で固定し、倒れないようにする。家族の集合場所は平日と休日において考えておくことで、いざ災害が起こった時、家族の集合場所が確保しやすくなり、非常食や水を用意していても災害が少いという消費費も減らす意味も限られることになる。また、避難場所を決めておくだけでも混乱せず行動できる。日頃からの備えで自分の身を守ることができる。

今を考える 頼れる人、いる?

東日本大震災で娘を亡くした母親の手紙に「人は、独りでは生きられない」と書かれていたそう。本校での防災訓練後の講演会で聞き、強く印象に残った。今、世界中で地震などの災害が多くなり、周りに頼れる人がいなくなつたらどうだろう。独りで耐えることはできるだろうか。突然の災害による恐怖に怯えながら生きていくのはきつと思う。そんな時、私たちは誰に頼ればいいのか、必要がある。みなさんは頼れる人が身近にいるだろうか。頼れる人は案外簡単に作れるもの。家族はもちろんだが、近所に住む人や友達など。ちょっとしたお礼の挨拶や会話で人とのつながりを作っておくことで支え合い、災害が起きたときの不安を軽減できるはず。しかし、私たちが、今、当たり前のことを突如として奪われてしまふ。だからこそ、その当たり前に感謝することが大切なのだと思ふ。つながりは恐怖を取り除き、心を守ってくれるのだと私たちが思ふ。

避難終了後は各学年に分かれ防災教育を受けた。1年生は防災グッズとして新聞紙を折ってスリッパを作り、強度を試した。災害時に割れてしまったガラスなどの破片で怪我をしまつたという話を聞いた。2・3年生は岡山県警察機動隊の方から東日本大震災直後の支援活動報告を聞いた。中でも災害にあった時にはまず「自衛・共助・公助」の順で行動することの重要性を学んだ。

クイズの答え

正解は○
自衛とは自分の安全は自分で守ること。
共助とは周りの人々と助け合うこと。
公助とは行政が住民を災害から守ること。
覚えておこう!

地震対策だけで大丈夫? 私たちの住む倉敷市では、地震や台風などどのような被害が起こり得るかを調べてみた。地震による津波の可能性は低いが土砂崩れの可能性は低くはない。岡山県は土砂崩れなどが発生する恐れがある場所を「土砂災害警戒区域」として1万2568カ所2016年4月現在指定している。加えて、土砂崩れだけでなく、液状化も懸念されている。近県で地震が発生した場合でも地盤沈下や液状化が発生する恐れがある。また、水島工業地帯では液状化だけでなく、重油を扱う工場も多いため火災も懸念されている。

あまり知られていないかもしれないが、明治35年に岡山県南部で液状化現象が起きた。昭和21年には西大寺町(現岡山山手)で震度6を観測し、死者52人に加え100戸が全壊した。県内で観測された最大の地震だ。

防災訓練

10月28日に鷺羽高校でも防災訓練が行われた。授業中に緊急地震速報を放送し、全校生徒が指示に従って避難した。この様子を見て防災担当の先生は、今までの訓練より緊張感を持って避難できていた。生徒だけでなく教職員も緊張感を持ってきていた」と話してくれたい。今後は、自分自身で災害が起こってもいかに備えを再確認すること、自分の命が一番だが、高校生活として人助けをすることを覚えておいてほしい」と言っていたことも印象に残った。

災害対策だけで大丈夫?

私たちが住む倉敷市では、地震や台風などどのような被害が起こり得るかを調べてみた。地震による津波の可能性は低いが土砂崩れの可能性は低くはない。岡山県は土砂崩れなどが発生する恐れがある場所を「土砂災害警戒区域」として1万2568カ所2016年4月現在指定している。加えて、土砂崩れだけでなく、液状化も懸念されている。近県で地震が発生した場合でも地盤沈下や液状化が発生する恐れがある。また、水島工業地帯では液状化だけでなく、重油を扱う工場も多いため火災も懸念されている。

もしもの時、知っているとおあなたを救う力になる。

新聞紙のスリッパ

あなたもできちゃう! 毛布で簡単担架!

端を丸めると持ち上げやすい!!

あったかご飯

ビニール袋で炊こう

超簡単手作りマスク

キッチンペーパー 1枚
輪ゴム 4本
ホットキス 2回

30秒で作れる簡易カッパ

防寒着にもなる!!

熊本や鳥取の地震を踏まえ、防災をテーマに据えました。生徒らへの意識調査や訓練の記事を載せ、備えの大切さを伝えています。手作り防災グッズの紹介も目を引きます。

寸評